

第140回 令和7年12月9日（火）

「代表チームの難しさについて。」

国体の選抜メンバーを選考するため、各チームから選ばれた優秀な選手を率いて代表チームの監督をした経験が何度かあります。

その時、単独チームと練習試合をするのですが、代表チームに単独チームのエースが入っているにもかかわらず、苦戦することが多々ありました。

侍ジャパンのようなオールスターチームが主力の抜けた単独チームに敗れることもよくあります。わかりやすい例でいうとアメリカバスケットボールのNBAのオリンピック代表チーム（ドリームチームと呼ばれたりします）も苦戦したり負けたりします。過去最高のチームと言われたときに銅メダルに終わったことは衝撃でした。

スターが集まる集団が必ずしも機能しないのはなぜなのでしょう。高校サッカーでもすでに日本代表となっているプレイヤーが何人もいるチームはなかなか優勝できません。

答えはチームの役割分担ができているかどうかです。陽の当たらないポジションで着実に仕事をこなすプレイヤーがいかにチームにとって大切なかがよくわかります。

バスケットで言えば河村、富樫と言った自分でも得点が取れるガードがいる一方で、往年の名プレイヤー（いまでも現役なのでこういっては失礼ですが）の田臥選手はアシストの名手でした。味方に信じられないパスを供給することで観客を魅了していました。

そのようなプレイヤーは育てようと思ってもなかなか育ちません。自分より他人に花を持たせる思考はその人の先天的な資質が大きく影響していると思います。チームにとって最も貴重な財産です。

仕事の場でも同じことが言えます。あなたがリーダーになった時、華々しい営業成績を上げる社員の中で、そのような縁の下の方の力持ちを見抜けるかどうかは会社の命運を握ります。そのような人材を失ってしまうとたちまち成績は下降します。

謙虚さの中に光るものを持っている、目立たなくても人が離れていかず人望が厚い、そのような人材を大事にすることがチームワークを良くします。

野球で言えば扇のかなめのキャッチャーは常にマスクで顔を隠していますが、最も大切なポジションであることは周知の事実です。